



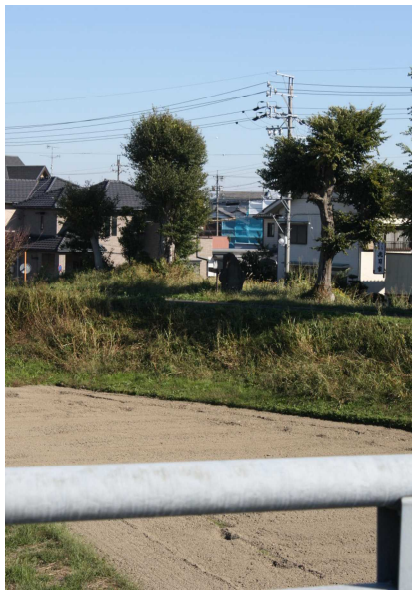
# 笠松の「モラルセンス」偉人編 No.10



不思議な場所で、気になる碑を見つけました。

## 笠松の偉人「<sup>すぎやま</sup>杉山 <sup>じんがい</sup>塵外 <sup>おう</sup>翁」について

笠松町桜町の堤防の道脇に、縦2メートル、横1メートル50センチ程の大きな碑が建っています。誰の石碑だろうと、刻まれている碑文を読みますと、杉山翁紀功碑銘(すぎやまおう きこう ひめい)と、題字が書かれています。「紀功」とは「手柄を書き留める。」ということです。杉山 塵外翁は1829年(文政12年)に厚見郡領下村の中谷 利右衛門の三男として生まれました。名前は茂です。塵外というのは号です。笠松町本町の杉山 市右衛門の養子となり、杉山 塵外となりました。



↑ はちまん大橋から  
見た石碑の写真(境川)

塵外は人柄がまじめで、幼少より学問を好み、一生懸命学びました。塵外は副区長、郡書記、県会議長などを務め、後に村役場の戸長になりました。その当時、笠松の北を流れる境川は、年に数回ほど、大雨が降ると水が堤からあふれました。塵外はそのことを大変心配し、立派な堤を造って水害をなくそうと考え、いろんな人に一生懸命頼んで回りました。

県知事だった小崎 利準氏が、塵外の熱心さに感心し、ついにその願いをかなえました。工事は明治20年1月から21年の4月にかけて行われました。堤の長さは1368メートルもありました。これ以後、大雨が降っても水に沈む被害がなくなりました。このよいことは今も長く続いています。

町議会は石碑を建てて、その手柄やよい教えをいつまでも伝えようと計画しましたが、塵外は石碑を見ることなく病気で亡くなりました。71才でした。



「いつ来ても あかぬ眺めや 四季の里」 しげる(塵外)

参考文献「笠松町の漢詩漢文碑」編者 宮崎じゅん 発行 笠松町文化協会

幼、保、小、中、高校生の皆さんからボランティア体験を募集します。ぜひ、お寄せください。また、町内で「ちょっといい話」を小耳にはさまれましたら、笠松中央公民館担当まで電話、FAX手紙、意見箱などの方法で、ご連絡いただくと幸いです。記事にさせていただくことがあります。なお、この「モラルセンス」は笠松町のホームページの「道德のまち」のバナーをクリックすることによって、第1号から最新号まで閲覧できます。ご活用ください。Tel 388-3926 FAX 388-3233